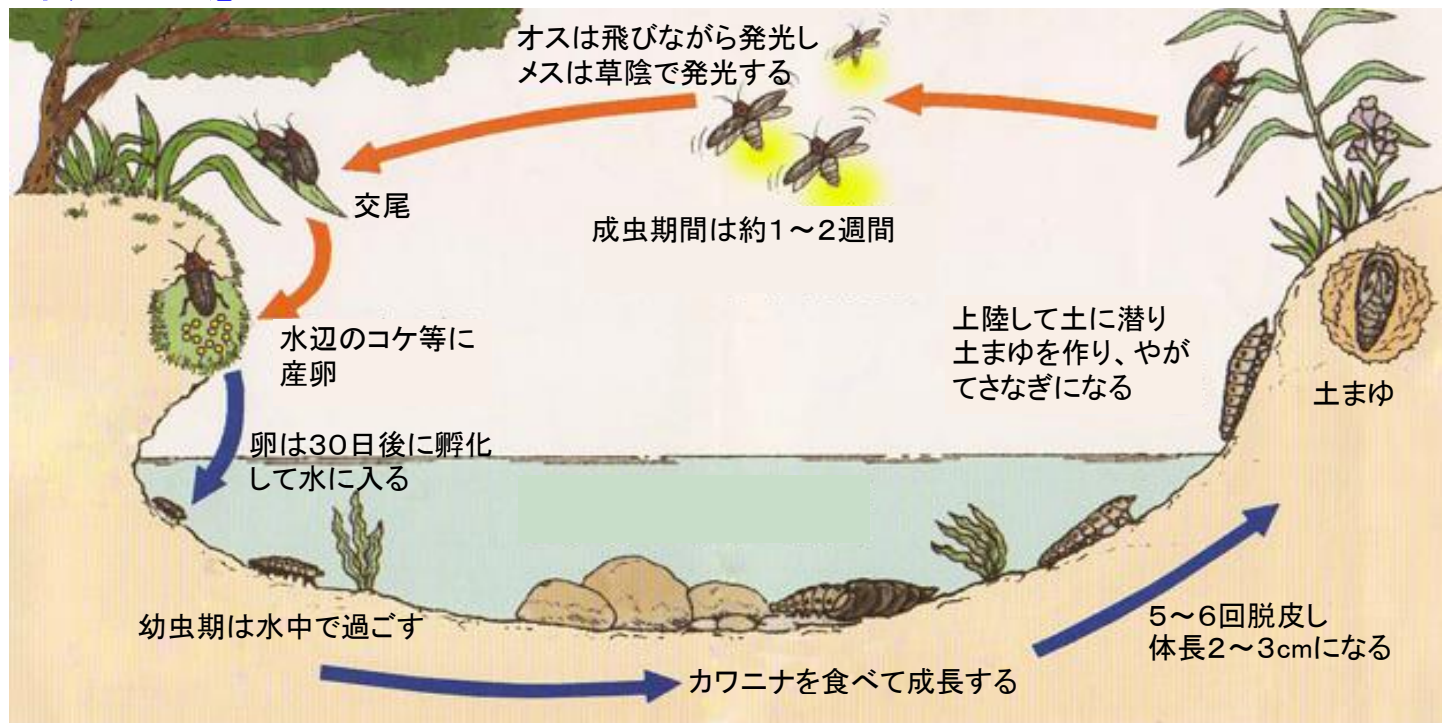
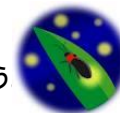


ホタルの生態



ホタルの一生

- ・成虫(5月下旬~7月上旬)
ホタルの成虫となり発光しながら飛び交う。寿命は1週間~2週間といわれている。
- ・交尾・産卵(6月上旬~7月中旬)
卵の大きさは0.5mm程度。1ヶ月程で孵化し水に入る。
- ・水中生活(孵化~4月下旬)
幼虫は水中で餌としてカワニナを食べ、5~6回の脱皮を繰り返す、約10ヶ月掛けて大きくなる。
- ・上陸(4月中旬~5月下旬)
水中から這い上がり、土の中に潜り土まゆを作る。



案内看板

ホタルの飛ぶ季節には逆瀬川駅周辺に看板を立てています。



ホタルの幼虫放流会(9月~10月)

参加小学校

- ・西山小学校 3年
- ・逆瀬台小学校 2年
- ・末成小学校 3年



ホタルの幼虫とカワニナを入れた紙コップを持って建屋の中に入り水の中に放流する。

ゲンジボタルについて(逆瀬川周辺はゲンジボタル)

・ゲンジボタル

西日本型:光の間隔は2秒に1回で、速く明滅する頭頂部に黒の十文字



・ヘイケボタル(参考)

光の間隔は1秒に1回くらいで、弱々しく明滅する頭頂部に黒の縦一文字



・ゲンジボタルの幼虫は、カワニナのみを餌として食べ栄養分を蓄え、成虫になると草の露などの水しか飲まない。(ホタルの幼虫1に対して、25~30と沢山のカワニナが必要。)



ホタルの幼虫は美しく光る成虫とは、全く違った姿をしています。大きさは、上陸前で2cm~2.5cm 生まれたては1.5mm~2mm程度。

カワニナについて

・繁殖期は春と秋で、雌は卵ではなく微小な仔貝を年間800~2000匹ほど産み落とす。5月始めに生まれたカワニナの稚貝は、7月には2mmに育ち、これがゲンジボタルの孵化したばかりの幼虫の絶好の食べ物になる。

・カワニナは、自然の中では川の中の石に付いたコケや、えび・魚の死骸を食べますが、この施設ではキャベツ・白菜・小松菜・カボチャ・サツマイモ・ニンジン・スイカの皮等の野菜類も与えている。

・カワニナの外敵としては、サワガニ、ハバヒロビル、クマネズミ等が挙げられる。(ピカピカランドで、カワニナがネズミに大量に食べられた事があった。)

(紙芝居:こまったお客様)



大きさは大きいもので2.5~3cm 稚貝は0.2mm~0.5mm

ピカピカランドの施設について

・建屋: 間口 4.1m X 奥行き 11.5m X 高さ 2.5m
・中央部には水路が有り、逆瀬川より分岐した農業用水路より水を取込み、出口側から再び農業用水路に戻している。